

教員免許状更新講習(富山大学との連携事業) 教科指導・特別活動・学級経営に生かす体験活動

1 ねらい

学校教育の課題となっている子供たちのコミュニケーション不足に対応するため、体験学習を取り入れた人間関係づくりの方法を身に付ける。また、自然体験活動の指導技術を身に付け、体験活動の重要性について体感するとともに、学級づくりに役立つ体験活動の指導法について学ぶ。

2 期日

平成30年8月8日(水)～10日(金) 2泊3日

3 対象

幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校教諭等

4 参加人数／募集人数

50名／50名

5 講師・スタッフ

富山大学人間発達科学部 准教授 林 衛 氏

金沢大学大学院教職実践研究科 教授 松本 謙一 氏

国立立山青少年自然の家 次長及び主任企画指導専門職

6 日程

	午 前	午 後	夜
8月8日(水) 1日目		開講式(13:20～) 講義「学習指導要領と体験活動」 講義「体験活動のねらいと環境構成」	講義・実習 講義「体験活動と危機管理」
8月9日(木) 2日目	講義・実習 「望ましい集団づくりを目指して」	講義・実習 「自然体験活動(来拝山登山)」	講義・実習 「体験活動と人間関係づくり」 「天体観測の方法と指導」
8月10日(金) 3日目	講義・実習 「体験活動と評価」 「体験活動での支援の在り方」 履修認定試験 閉講式(11:45～)		

7 参加者からの感想

- 教員自身が実体験を通して、自然との触れ合いや集団での学び合いのよさを感じることができてよかった。体験活動についての基本的な知識や技能、これまでの取組みを見直すことができた。子供たちには、ねらいを明確にして豊かな体験をさせたいと思った。
- 他県からの参加であったが、この講習を通して、富山県には自然体験のためのすばらしい環境が整っていることに感動した。子供たちの生活が大きく変化してきている今だからこそ、このような場で自然体験活動を充実させていく必要があると強く感じた。
- ワークショップを通して、他校での取組みや、異校種の先生方の考え方を聞くことができてよかった。今後も、このネットワークを生かして、子供たちの体験活動の充実等に努めていきたい。

8 成果

- 参加者のアンケートでは多くの方から「満足」の評価をいただいた。講師の先生方からたくさんのお話を学ぶことができたこと、学校現場ですぐに生かすことができるものを得られたようである。時間的なゆとりもあり、充実した3日間を過ごしていただくことができた。

9 今後の課題

- 野外炊事や薪割りの実習、テント泊等、体験的な活動をより充実させてほしいとの要望があった。本講習の趣旨に鑑み、講義と実習のバランス、参加者の負担等を考慮しながら、内容の見直しがあってもよい。